

# 名誉教授推薦理由書

## 1. 被推薦者の職・所属及び氏名

静岡大学教育学部 学校教育講座 教授 弓野 憲一

## 2. 推薦機関の名称

静岡大学教育学部教授会

## 3. 推薦理由

同人は、昭和52年3月に九州大学大学院教育学研究科博士課程を単位取得の上、満期退学し、同年4月に同大学教育学部助手に採用された。その後、昭和54年4月に静岡大学教育学部に講師として着任し、昭和56年4月に助教授、平成2年4月に教授に昇進し、平成23年3月に、停年により退職した。

同人は、静岡大学教育学部に着任以来32年にわたり、同学部における教育と研究に大きく貢献した。その間、同学部教育心理学教室に所属し、教職科目としての「発達と学習」「特別活動論」「学級心理学」、教育心理学専修生のための「授業心理学」「個性化教育論」「児童理解の方法」「教育心理学実践演習」「創造心理学演習」、情報教育専攻生のための「認知科学」等の科目を担当して、学校教育や情報教育を推進できる有為な人材を養成し、静岡県のみならず全国の教育界および産業界に送り出した。

教育学研究科修士課程においては、「創造心理学特論」「学習心理学特論」「課題研究」等を通じて、高度な学識と力量のある大学教員、教員および心理士を育てた。

また、平成14年4月から3年間、静岡大学教育学部附属養護学校長として法人化に伴う種々の任務をこなすとともに、県立の特別支援学校との研究連携を深め、附属養護学校の教育研究を活性化した。

学部運営としては、教務委員を務め、平成4年度に教務副委員長（教育実習委員長）として、新たな教育実習形態の導入に寄与した。また平成11年度には、学生就職副委員長、12年度は学生就職委員長として、当時非常に厳しかった教員への就職率の向上のために尽力した。さらに平成20年度からの3年間は、教育学部FD委員長として新任教員の研修を充実させるとともに、一般教員の授業の質の改善にも取り組んだ。その方策として、各講座・教室の代表者による「公開授業」とほめ方ワークショップを実施した。そしてその成果等を「静岡大学教育学部FD報告書」にまとめた。平成20年度には教育学部の紀要委員長として、研究紀要の発刊も行っている。

学術研究に関しては、同人の研究分野は多岐にわたっている。静岡大学に着任してからの約10年間は、人の長期記憶の構造と記憶内容の検索過程に関するメカニズムを明らかにするために、精力的に実証実験を重ねている。そして、長期記憶は学校等で学習する知識に相当する「意味記憶」と個人の体験が反映された「エピソード記憶」から構成されることを確認し、よりよい検索のためには各種の検索手がかりが有効であることを実証した。そして一般性のある「記憶検索モデル」を提出している。一連の成果は、著作「記憶の構造と検索過程」にまとめられていて、まだ記憶研究が乏しかった当時の記憶研究者に大きな影響を与えた。

同人の研究で次に取り上げられるのは、「対数-線形モデルによる質的データの解析とその

ための BASIC プログラム」である。当時の日本の教育統計では、大きな 2 次元表または 3 次元表にまとめられたデータにおいて全体で有意な偏りが見られた場合に、その偏りがいずれのセルの数値の偏りによるのかを特定できなかった。同人は、対数-線形モデルに関する数理理論を展開して、有意な偏りを同定することのできる BASIC プログラムを完成させた。このプログラムは多くの研究者によって頻繁に利用され、日本の学術研究レベルの向上に寄与している。

ノバックの提唱する概念地図法 (Concept Mapping) の日本への紹介と教育実践への導入も顕著な業績である。人のもっている知識は、長期記憶の中でバラバラに保持されているのではなく、意味のつながりのネットワークとして貯蔵されていると予想される。ノバックはこのネットワークを概念地図と名付け、文学・理科・数学・社会等の教科の授業に使った。1994-95 にコーネル大学の授業に参加した同人は、この優れた教育方法を身につけて日本に紹介するとともに、授業・講習等で学生および現職教師に伝えてきた。中でも、同人がアドバイザーをつとめた大藤小学校は、3 年生より上の学年に数年にわたってこの方法を取り入れ、質の高い教育実践に成功している。

1984-5 年にアメリカのネブラスカ大学とコーネル大学で研修した同人は、「なぜアメリカでは創造性が育ち、日本ではそれが難しいのか」を究明するために、アメリカの創造性の研究者と意見交換を行い、日本の大学や研究所でそれを阻んでいる要因を突き止めた。そして学部・大学院において「創造心理学」「創造心理学演習」「授業心理学」「個性化教育論」を開設し、将来教員になった学生が、教室において子どもの創造性を育成するために必要な理論とノウハウを伝えてきた。その理論とノウハウは、2003 年に小・中・高等学校に初めて導入された「総合的学習の時間」の展開方法を示した「総合的学習の学力」という一冊の本にまとめられ、総合的学習の教育方法を模索していた当時の教育界に大きな影響を与えた。

同人の学術への貢献としてさらに注目されるのは、日本創造学会研究大会および日本教育心理学会総会の開催である。特に後者では、英国の創造性教育を先導するフライヤー氏を招いて行った講演が、学校関係者に日本の教育の実情を振り返る機会を与え、大きな感銘を与えた。さらに、国内外において実施された多数のシンポジウムおよび講演も学術の発展に大きく寄与している。

また最近になって始めた「個性と創造性を伸ばすほめ言葉・ほめ方」研究は、学びが優勢の日本の教育に「創り」を導入することの大切さを提唱しており、学校教育のみならず家庭教育に大きな影響を与えることが予想される。

社会的活動では、日本創造学会理事・日本教育心理学会理事を務め、学会の運営に寄与している。また森下小学校と城北高等学校では学校評議員として、学校の運営・評価に尽力している。また静岡県学校評価の在り方検討委員会委員も務め、県立学校の評価の在り方に意見を述べている。

以上のように同人は在任中に、研究・教育および社会的活動において多大な成果を残すとともに、教育学部・教育学研究科・教育心理学教室の運営と発展に尽力し、有為な人材を多数養成して社会に出すなど多くの貢献をしてきた。その功績は顕著であり、ここに静岡大学名誉教授として推薦するものである

## 名誉教授推薦調書

### 1. 被表彰者

本籍地 静岡県  
現住所 〒422-8078  
氏名 弓野 憲一  
生年月日

### 2. 退職当時の職名および所属

教授 教育学部 学校教育講座

### 3. 履歴事項

#### 学歴

昭和45年3月 福岡教育大学中学校教員養成課程技術科卒業  
昭和47年4月 九州大学大学院教育学研究科修士課程（教育心理学専攻）入学  
昭和49年3月 同課程・同専攻 修了  
昭和49年4月 九州大学大学院教育学研究科博士課程（教育心理学専攻）入学  
昭和52年3月 同課程・同専攻 単位取得退学

#### 職歴

昭和52年4月 九州大学教育学部助手  
昭和54年4月 静岡大学教育学部講師  
昭和56年4月 静岡大学教育学部助教授  
平成2年4月 静岡大学教育学部教授  
平成23年3月 停年退職

### 4. 著書、論文、翻訳

#### ア 著書

##### a. 単著

- (1) 『記憶の構造と検索過程』 Pp. 1-240. 風間書房 平成3年2月
- (2) 『総合的学習の学力-測定と評価技法の開発-』 Pp. 1-186.  
明治図書 平成13年12月

##### b. 編著

- (1) 『特別活動と総合的学習の心理学』 Pp. 1-22, 97-106, 147-154.  
ナカニシヤ出版 平成11年3月
- (2) 『発達・学習の心理学』 Pp. 97-112, 163-179.  
ナカニシヤ出版 平成14年5月
- (3) 『世界の創造性教育』 Pp. 73-77, 115-135, 177-183.  
ナカニシヤ出版 平成17年10月

c. 分担執筆

- (1) 「感覚運動学習」 (山内光哉編著) 『学習と教授の心理学』 Pp. 185~196.  
九州大学出版会 昭和53年4月
- (2) 「学習の動機づけ」 安藤延男(編著) 『教育心理学入門』 Pp. 51~65.  
福村出版 昭和57年5月
- (3) 「推理と問題解決の発達」 (山内光哉編著) 『記憶と思考の発達心理学』  
Pp. 83~106. 金子書房 昭和58年4月
- (4) 「問題解決と推理」 (春木豊・山内光哉編著) 『学習心理学』 Pp. 160~172.  
サイエンス社 昭和60年5月
- (5) 「分散分析」 (海保博之編著) 『心理・教育データの解析法10講 基礎編』  
Pp. 119~136. 福村出版 昭和60年10月
- (6) 「分割表を吟味する」 (海保博之編著) 『心理・教育データの解析法10講 応用  
編』 Pp. 77~97. 福村出版 昭和61年5月
- (7) 「生徒指導と進路指導」 (加藤義昭・中里至正編著) 『入門教育心理学』  
Pp. 121~134. 八千代出版 昭和63年4月
- (8) 「問題解決と創造性」 (静岡大学心理研究室編) 『心理学』 Pp. 131-157.  
八千代出版 平成元年4月
- (9) 「学習への準備」, 「読み・書き・数の発達」 (三神廣子・梶田正巳・中野靖彦  
編) 『こどもの心理』 Pp. 122~130, Pp. 170~178.  
福村出版 平成元年10月
- (10) 「創造性の発達」 (静岡大学心理研究室編) 『こどもの発達と教育に関する最近  
の諸研究』: 勝井晃退官記念論文集 Pp. 57~69. 八千代出版  
平成2年5月
- (11) 「学習と創造」 (坂本昂編著) 『発達と学習 心の学びのしくみ』  
Pp. 139~155. ぎょうせい 平成2年5月
- (12) 「生産生活 ー生涯にわたる業績・仕事・創造性ー」 (山内光哉編著) 『発達心  
理学(下)』 Pp. 113~120. ナカニシヤ出版 平成2年7月
- (13) 「概念地図法による新しい授業の工夫」 (日本個性協会編) 『小学校 授業  
づくりのアイデア全書』 Pp. 198-201. ぎょうせい 平成4年1月
- (14) 「日仏の子どもの空間的対象物に関する感性と創造性」 創造性研究10  
Pp. 83~96. 日本創造学会 平成6年2月
- (15) 「問題解決と推理」 (春木豊・山内光哉編著) 『グラフィック学習心理学』  
Pp. 160-172. サイエンス社 平成12年3月
- (16) 「生産生活 ー生涯にわたる業績・仕事・創造性ー」 (山内光哉編著)  
『発達心理学(下) 第2版』 Pp. 154-163. ナカニシヤ出版 平成13年3月
- (17) 「イメージと創造性」 (菱谷晋介編著) 『イメージの心理学』 Pp. 179-192.  
ナカニシヤ出版 平成13年5月
- (18) 「創造性教育のありかた」 高橋誠(編著) 『新編創造力辞典』 Pp. 75-86.  
日科技連 平成14年12月
- (19) Education reform and fostering creativity in Japan. M. Fryer(Ed.)  
"Creativity and cultural diversity" Pp.123-130. Creativity Centre

Educational Trust. 2004.

- (20) 「知能・創造性・思考」 社会福祉士養成講座編集委員会（編）『心理学理論と心理的支援』Pp. 73-84. 中央法規出版 平成21年2月
- (21) 「発想から企画までの問題解決手順」 高橋誠（編著）『発想と企画の心理学』Pp. 43-56. 朝倉書店 平成22年5月

#### イ 辞典

- (1) 「創造性」Pp. 416-417. 「個人差」P. 212. 「個性」P. 213. 「児童期」P. 279.  
岡本夏木ら（編著）『発達心理学事典』ミネルバー書房 平成7年
- (2) 「創造性」p. 380. 「創造性の指導と評価」P. 381. 「創造性検査とその活用」  
P. 382. 海保博之（編著）『教育評価辞典』 図書文化 平成17年

#### ウ 論文

- (1) 「児童における規則学習過程の分析」 『九州大学教育学部紀要』  
（教育心理学部門）20巻2号 Pp. 45~54. 昭和51年3月
- (2) 「汎用反応潜時測定装置の試作」 『心理学研究』47巻1号 Pp. 40~44.  
昭和51年4月（菱谷晋介と共著）
- (3) 「短期記憶におけるカテゴリーおよび非カテゴリー項目の検索」 『九州大学  
教育学部紀要』（教育心理学部門）21巻1号 Pp. 73~77.  
昭和51年12月（山内光哉と共著）
- (4) 「単一カテゴリーに属する項目の多試行自由放出」 『九州大学教育学部紀要』  
（教育心理学部門）21巻2号 Pp. 99~103. 昭和52年3月  
（山内光哉と共著）
- (5) 「自由放出法による長期記憶検索過程の分析」 『心理学研究』  
48巻1号 Pp. 7~13. 昭和52年4月
- (6) 「 $X^2$ 集計表の分割と期待値が小さい場合の $X^2$ テストについて」  
『九州大学教育学部紀要』（教育心理学部門）22巻2号 Pp. 69~80.  
昭和53年3月
- (7) 「内田・クレペリンテストの遂行パターンに関する線形判別関数法による  
正常者と分裂病者の判別」 『九州大学教育学部紀要』（教育心理学部門）  
22巻2号 Pp. 1~5. 昭和53年3月
- (8) 「系列予想法によるカテゴリー項目の検索」  
『九州大学教育学部紀要』（教育心理学部門）23巻1号 Pp. 45~48.  
昭和53年6月
- (9) 「皮膚温バイオフィードバック装置の試作」 『九州大学教育学部紀要』  
（教育心理学部門）23巻2号 Pp. 41~44. 昭和53年12月
- (10) 「固定法によるカテゴリーおよび非カテゴリー項目の検索」 『心理学研究』  
50巻4号 Pp. 227~230. 昭和54年10月
- (11) 「自由放出項目の再認」 『静岡大学教育学部研究報告』（自然科学篇）  
第31号 Pp. 131~138. 昭和55年3月

- (12) 「対数一線形モデルによる質的データの解析とそのための BASIC プログラム」  
『静岡大学教育学部研究報告』（自然科学篇）  
第 3 2 号 Pp. 189~215. 昭和 5 6 年 3 月
- (13) 「幾何図形の位置と形情報の並列処理」 『静岡大学教育学部研究報告』  
（人文・社会科学篇） 第 3 3 号 Pp. 181~188. 昭和 5 7 年 3 月
- (14) 「多試行自由放出における検索メカニズムについて」 『心理学研究』  
5 3 巻 3 号 Pp. 151-157. 昭和 5 7 年 8 月
- (15) 「意味記憶の検索に及ぼす概念の典型性の効果」 『静岡大学教育学部研究  
報告』（人文・社会科学篇） 第 3 5 号 Pp. 147~156.  
昭和 5 9 年 3 月
- (16) 「The Relationships between Semantic-Episodic Cues and Retrieval  
Limitations in Free- and Cued-emission.」 『静岡大学教育学部研究  
報告』（人文・社会科学篇） 第 3 8 号 Pp. 153-164. 昭和 6 2 年 3 月
- (17) 「空間的対象物に対する文化的感性と認知の発達についての日仏比較研究」  
『静岡大学教育学部研究報告』（教科教育学篇） 第 2 2 号 Pp. 27~54  
平成 3 年 3 月（岡本・柴田と共著）
- (18) 「The Effects of Mental Rehearsal on the Acquisition of Tennis Skills.」  
『静岡大学教育学部研究報告』（人文・社会科学篇） 第 4 1 号  
Pp. 277~285. 平成 3 年 3 月
- (19) 「こどもの物語理解の発達」 『静岡大学教育学部研究報告』（人文・社会  
科学篇） 第 4 2 号 Pp. 189-198. 平成 4 年 3 月（岩岡佳と共著）
- (20) 「8 タイル問題の解決過程とそのシミュレーション」 『静岡大学教育学部研  
究報告』（自然科学篇） 第 4 3 号 平成 5 年 3 月
- (21) 「空間図形の認知発達に関する日仏比較研究」 『静岡大学教育学部研究報  
告』（教科教育学篇） 第 2 4 号 Pp. 57~80. 平成 5 年 3 月（岡本と共著）
- (22) 「概念地図法による国語科学習の研究」 『静岡大学教育学部教育実践研究  
指導センター紀要』 第 2 号 Pp. 115-129 平成 5 年 1 0 月
- (23) 「記憶のモデルからみた創造的問題解決」 『山内光哉教授退官記念論文集』  
Pp. 47-55. 平成 6 年 3 月
- (24) 「立体構成力と創造性の発達」 『静岡大学教育学部研究報告』（教科教育  
学篇） 第 2 5 号 Pp. 61~78. 平成 6 年 3 月（岡本と共著）
- (25) 「記憶のモデルから見た創造的問題解決過程」 山内光哉教授退官記念研究誌  
Pp. 47-55. 平成 6 年 3 月
- (26) 「コンピューターによる皮膚温バイオフィードバックシステムの試作」  
『静岡大学教育学部研究報告』（自然科学篇） 第 4 5 号 Pp. 1~6.  
平成 7 年 3 月（上西と共著）
- (27) 「イメージ喚起能力とバイオフィードバックを用いた皮膚温自己制御能力と  
の関係」 『静岡大学教育学部研究報告』（人文・社会科学篇） 第 4 5 号  
平成 7 年 3 月（上西と共著）
- (28) 「児童における概念発達と文章理解の関係について」 『静岡大学教育学部研  
究報告』（教科教育学篇） 第 27 号 Pp. 237~246. 平成 7 年 3 月（高淵と共著）

- (29) 「大学生における創造的態度と創造的行動について」『静岡大学教育学部研究報告』（人文・社会科学篇）第46号 Pp. 207-221. 平成9年3月  
（渡辺貴と共著）
- (30) 「これからの障害者教育・援助に関する一考察」『静岡大学教育学部研究報告』（教科教育学篇）第28号 Pp. 1~10. 平成9年3月（弓野スミ子と共著）
- (31) Creativity, Self-concept and Social Compliance in Japanese and Canadian Elementary School Children. Journal of Knowledge, Creation and Computer, No.6. Pp.I-26~I-37. (With Carolyn Yewchuk and Satomi Currah, University of Alberta, Canada) 1996.3.
- (32) 創造性におよぼす等価変換訓練の効果 『日本創造学会論文誌』 Vol. 2. Pp. 37-42. 平成10年3月（山本浩之と共著）
- (33) 子どもの好奇心と創造性を育てる 『日本創造学会論文誌』 Vol. 2. Pp. 76-83. 平成10年3月
- (34) インターネットを利用した子どもの創造啓発 『日本創造学会論文誌』 Vol. 3. Pp. 73-84. 平成11年3月
- (35) 日本の子供の学力と創造力 『日本創造学会論文誌』 Vol. 5. Pp. 44-54. 平成13年3月
- (36) 総合的学習で伸ばす・能力・態度・知識は何か 『静岡大学教育学部研究報告』（教科教育学篇）第32号 Pp. 239~249. 平成13年3月
- (37) NM法による創造性育成に関する実証的研究 『静岡大学教育学部研究報告』（人文・社会科学篇）第53号 Pp. 225-234. 平成15年3月（上西と共著）
- (38) 総合的学習 『教育心理学年報-教育心理学と実践活動』第42集 Pp. 192-201. 平成15年3月
- (39) 飛ぶ原理を深く広く理解する授業実践に関する研究 『日本創造学会論文誌』 Vol. 7. Pp. 1-12. 平成15年12月
- (40) 総合的学習時代の教育に関する一考察 『静岡大学教育学部研究報告』（教科教育学篇）第35号 Pp. 259~281. 平成16年3月
- (41) 教室における子供の練り合う力の育成 『静岡大学教育学部研究報告』（教科教育学篇）第35号 Pp. 249~263. 平成16年3月
- (42) 世界の創造性教育 『教育心理学年報-教育心理学と実践活動』第46集 Pp. 1-10. 日本教育心理学会 平成19年5月（平石と共著）
- (43) 学習ロケットの開発と試用 『静岡大学教育学部研究報告』（人文・社会科学篇）第58号 Pp. 231-238. 平成20年3月（烏蘭其其格と共著）
- (44) 世界の創造性教育の動向 『学校教育研究所年報』第52号 Pp. 1-10. 平成20年3月
- (45) 世界の創造性教育を概観する 『静岡大学教育学部研究報告』（教科教育学篇）Pp. 47-76. 平成22年3月（烏蘭其其格と共著）
- (46) 個性的能力と創造性に関する教師と大学生のほめ言葉比較 『日本創造学会論文誌』（印刷中）（山崎彩乃と共著）

## エ 翻訳

- (1) エバリット著 (山内光哉監訳・弓野・菱谷訳) 『質的データの解析  
カイ二乗検定とその展開』 Pp. 40~128. 新曜社 昭和55年9月
- (2) ノヴァック・ゴーウィン著 (福岡・弓野監訳) 『子どもが学ぶ新しい学習法—  
概念地図法によるメタ学習—』 Pp. 1-131. 東洋館出版 平成4年9月
- (3) ミラー等著 (弓野監訳) 『創造的問題解決』 (訳) Pp. 1-16, 37-54.  
(監訳) Pp. 1-133. 北大路書房 平成18年9月
- (4) ミラー等著 (弓野監訳) 『創造的リーダーシップ』 (訳) Pp. 63-107.  
(監訳) Pp. 1 - 107. 北大路書房 平成19年8月
- (5) ウィルソン(編著) (弓野・渋谷監訳) 『英国初等学校の創造性教育 上』  
(訳) Pp. 1-72, 187-212. (監訳) Pp. 1-255. 静岡学術出版 平成21年8月
- (6) ウィルソン(編著) (弓野監訳) 『英国初等学校の創造性教育 上・下』  
(監訳) Pp. 256-460. 静岡学術出版 平成21年8月

## 5 特許、表彰、学位

教育学修士 昭和49年3月20日 九州大学  
論文名 「規則的情報系列の想起と予測」  
教育学博士 昭和60年3月20日 九州大学  
論文名 「記憶の構造と検索に関する研究」

## 6 学会における活動

### ア 会員

日本心理学会会員 昭和47年4月 - 平成14年3月  
日本教育心理学会会員 昭和47年4月 - 現在  
日本創造学会会員 昭和60年4月 - 現在  
日本認知科学学会会員 昭和62年4月 - 平成17年3月

### イ 学会開催

日本創造学会第19回研究発表大会(静岡大学)委員長 平成9年9月  
日本創造学会29回研究発表大会(静岡)委員長 平成19年10月  
日本教育心理学会第51回総会(静岡大学)委員長 平成21年9月

## 7 社会的活動

日本創造学会理事 平成11年1月-現在  
日本創造学会副理事長 平成17年1月-19年12月  
日本創造学会副会長 平成20年1月-22年12月  
日本創造学会会長 平成23年1月-25年12月  
日本創造学会論文誌編集委員 平成11年1月-現在

日本教育心理学会理事 平成18年10月-22年9月  
教育心理学年報編集委員長 平成18年1月-18年12月



静岡市立森下小学校学校評議員 平成14年4月－20年3月  
静岡県立城北高等学校学校評議員 平成17年4月－20年3月

磐田市立大藤小学校教育実践アドバイザー 平成元年－6年  
静岡県立学校評価の在り方検討委員会委員 平成17年4月－18年3月  
財団法人学習ソフトウェア情報研究センター研究員 平成19年10月－20年9月

## 8 学校長・学内委員長等

静岡大学教育学部附属養護学校長 2002. 4. 1-2005. 3. 31

教育学部自己点検評価委員長 1991. 10-92. 3.  
教務副委員長(教育実習委員長) 1992. 4-1993. 3.  
防災委員長(全学防災管理委員会委員) 1996. 4-97. 3.  
学生就職副委員長 1999. 4.-2000. 3.  
学生就職委員長 2000. 4.-2001. 3.  
附属養護学校校長 2003. 4.-2005. 3.  
教育学部紀要編集委員長 2007. 4.-2008. 3.  
教育学部FD委員長 2008. 4.-2011. 3.  
大学教育センター会議委員 2008. 4. - 2011. 3.  
全学FD委員会委員 2008. 4. - 2011. 3.

## 9 その他

### ア 論文

- (1) 「図形イメージ処理過程の分析」『リハビリテーション心理学研究』(VI)  
Pp. 98～102. 心理リハビリテーション研究所 昭和53年3月  
(菱谷晋介と共著)
- (2) 「高度情報化社会の学習と創造(1) ー高度情報化社会の学習と創造  
の特色ー」『教職研修』3月号 Pp. 115～117. 平成2年3月
- (3) 「高度情報化社会の学習と創造(2) ー概念地図法による学習と創造ー」  
『教職研修』4月号 Pp. 88～90. 平成2年4月
- (4) 「高度情報化社会の学習と創造(3) ー概念地図法の生活科への適用ー」  
『教職研修』5月号 Pp. 115～7. 平成2年5月
- (5) 「概念地図法とゲームで学ぶ地図教材」『社会科教育』  
9月号 Pp. 76～80. 平成2年9月
- (6) 「こどもの技能・表現力はどんな面を評価すればいいか」『小学校教育』  
7月号 Pp. 53～55. 平成3年7月
- (7) 「創意工夫の評価をどう行うか」『教職研修』  
9月号 Pp. 106～107. 平成3年9月
- (8) 「行動目標か達成目標か」『教職研修』Pp. 240-1. 平成6年12月
- (9) 「観点別学習状況の評価と評定との関連をどう図るか」『教職研修』

- Pp. 46-7. 平成13年2月
- (10) 「興味・関心が出るまでまてーは本当か」 『総合的学習を創る』  
P. 9. 明治図書 平成13年3月
- (11) [コラム] 「総合的学習で創造的問題解決力を伸ばす」 荒木紀幸 (編著)  
『教育心理学の最先端』 Pp. 251-2. あいり出版 平成19年4月
- (12) 「一歩進んだキャリア教育」 『教師の広場』 VOL. 156 平成20年5月
- (13) 「創造性・独創性を伸ばす」 『教育研究』3月号 Pp. 18-21. 平成22年  
筑波大学附属小学校編

#### イ シンポジウム・講演等

- (1) [自主シンポジウム] 児童期の各種発達の相互関連について  
日本教育心理学会第30回大会論文集 Pp. S68~S69 昭和63年(1988)
- (2) [課題講演] 概念地図法による教授革命は可能か  
日本心理学会第51回大会論文集 Pp. S55~56 昭和63年(1988)
- (4) [台湾師範大学招待シンポジウム] How to Foster the Teacher's  
Creativity. STS 科学教育検討会 Proceedings, Pp. 1-21. 台湾師範大学  
平成9年(1997)
- (5) [シンポジウム] 創造性研究・教育・開発の今日的課題を探る  
日本創造学会第19回研究大会論文集 Pp. 20-25. 平成9年(1997)
- (6) [シンポジウム] 創造性研究・開発の今日的課題と展望  
日本創造学会第19回研究大会論文集 Pp. 42-45. 平成9年(1997)
- (7) [小講演] 概念地図法の展開10年  
日本教育心理学会第39回大会論文集 Pp. S73 平成9年(1997)
- (8) [国際セミナー] The Development of Concept Mapping Method in Japan  
Fourth International Seminar "FROM MISCONCEPTIONS TO  
CONSTRUCTED UNDERSTANDING. Cornell University. 1997
- (9) [招待シンポジウム] 教育心理学における質的データの解析法  
日本教育心理学会第41回大会論文集 Pp. S4-5. 平成10年(1998)
- (10) [自主シンポジウム] 総合的学習で伸ばす知識、能力、態度は何か  
日本教育心理学会第41回大会論文集 Pp. 12-13. 平成11年(1999)
- (11) [科学研究費成果公開シンポジウム] 21世紀の教育改革と創造教育  
沖縄県名護市 平成11年(1999)
- (12) [招待シンポジウム] これからの算数教育  
浜松市立村櫛小学校第50回算数教育研究会紀要 Pp. 15-25. 平成11年(1999)
- (13) [シンポジウム] 総合的学習と心理学の接点をさぐる  
日本教育心理学会第42回大会論文集 Pp. S92-93. 平成12年(2000)
- (14) [シンポジウム] 総合的学習 -学びを超えて創りへ-  
日本教育心理学会第43回大会論文集 Pp. S72-73. 平成13年(2001)
- (15) [招待講演] 子どもの発達と家庭教育 島田市幼児教育研究会  
平成14年(2002)
- (16) [招待講演] Education Reform and Fostering Creativity in Japan.

- In "Creativity & Cultural Diversity International conference",  
2002, Brighton: UK.
- (17) [招待ワークショップ] The NM Method for Creative Thinking.  
In "Creativity & Cultural Diversity International conference"  
2002, Brighton: UK.
- (18) [自主シンポジウム] 総合的学習で高い学力を育てる  
日本教育心理学会第45回大会論文集 Pp. S94-95. 平成15年(2003)
- (19) [招待講演] 世界の創造性教育と日本  
福島大学教育学部附属中学校 平成12年7月 (2003)
- (20) [招待講演] The Practices of Student Teachers that Facilitate Pupils'  
Understanding of Flying Mechanism Deeply and Broadly.  
International Conference of Creativity Education. 台北師範大学 2004.6.
- (21) [講演] 世界の創造性教育と日本 第26回日本創造学会研究大会  
平成16年10月(2004)
- (22) [招待講演] 高度情報化社会と世界の創造性教育 北陸先端科学技術大学院大学  
平成17年5月(2005)
- (23) [International Lecture]: "Creativity Education in the World" NY State  
University at Buffalo. 2005.7.
- (24) [講演] 創造性教育の過去・現在・未来 日本創造学会・創造性教育  
研究会夏期セミナー 平成17年8月(2005)
- (25) [招待講演] 看護における創造的問題解決 聖隷クリストファ大学  
平成19年6月(2007)
- (26) [招待講演] 児童・生徒の問題解決力を育てる創造性教育 千葉大学教育心理士会  
平成19年6月(2007)
- (27) [招待講演] 創造的問題解決 静岡県立大学経営情報科研究会  
平成19年9月(2007)
- (28) [自主シンポジウム] 創造的問題解決力の育成  
日本教育心理学会第49回大会論文集 Pp. S84-85. 平成19年9月(2007)
- (29) [シンポジウム] 創造的問題解決技法を駆使する  
日本創造学会第29回研究大会論文集 Pp. 2-3. 平成19年10月(2007)
- (30) [講演] PISA型学力の形成に創造性教育はいかに寄与できるか?  
日本創造学会創造性教育研究会 平成20年5月(2008)
- (31) [招待講演] 創造性を育む教育：未来の日本を創る子どもたちの育成  
知的財産教育セミナー in 佐世保 平成20年12月(2008)
- (32) [総会シンポジウム] 英国の創造性教育から学ぶ  
日本教育心理学会第51回大会論文集 Pp. S10-11. 平成21年9月(2009)
- (33) [総会シンポジウム] 日本の大学・大学院の創造性教育  
日本教育心理学会第51回大会論文集 Pp. S18-19. 平成21年9月(2009)
- (34) [自主シンポジウム] 個性的能力創造性を伸ばすほめ方-しかって個性がのびせるか?  
日本教育心理学会第52回総会論文集 Pp. J6. 平成22年9月27日(2010)
- (35) [招待講演] 独創性を伸ばす教育 筑波大学附属小学校(平成23年3月3日予定)

#### ウ 科学研究費報告書等

- (1) 「文入力情報最適処理モデルの構築とコンピューターシミュレーションによるその検討」 科学研究費総合A 『文章記憶の構造と機能に関する研究成果報告書』 Pp. 21～26. 昭和56年3月  
(研究代表山内光哉)
- (2) 「創造性育成に関する実証的研究」 (カシオ科学振興財団) 『ANNUAL REPORT』 Pp. 98-99. 昭和63年8月
- (3) 「空間図形に対する文化的感性と認知の発達に関する日仏比較研究」 『空間認識と幾何教育に関する日仏共同研究中間報告書』 Pp. 1-43. 平成2年8月 (岡本・柴田と共同)
- (4) 「空間概念の獲得に及ぼす教授・学習諸方略の効果に関する研究」 科学研究費総合A 平成5年3月
- (5) 「幾何学的対象物に関する文化的感性・認知の発達の日仏比較」 科学研究費一般B 平成5年3月
- (6) 「看護教育における創造的問題解決の教育方法の開発」 科学研究費・基盤研究(C) 平成20、21、22年度  
(研究代表 佐藤道子)

#### エ ホームページの製作 (子どもの創造を啓発するホームページ)

- (1) 地球をみんなですくおう (<http://dyumiken.com/rocket/sparc07/sparc07.html>)
- (2) 中間子への探求：湯川秀樹の業績を中心に  
(<http://dyumiken.com/rocket/sparc07/sparc07.html>)
- (3) トンネル効果について知ろう：江崎玲於奈の業績を中心に  
(<http://dyumiken.com/rocket/sparc07/sparc07.html>)
- (4) 利根川進の業績 (<http://dyumiken.com/rocket/sparc07/sparc07.html>)
- (5) 中学生のための深層心理学 (<http://dyumiken.com/rocket/sparc07/sparc07.html>)
- (6) 創造性って何だろう? (<http://dyumiken.com/rocket/sparc07/sparc07.html>)

#### オ ICTプログラムの開発

- (1) 入門アルファベットロケット (<http://dyumiken.com/rocket/rocket%20main.html>)
- (2) アルファベットロケット (<http://dyumiken.com/rocket/rocket%20main.html>)
- (3) ひらがなロケット (<http://dyumiken.com/rocket/rocket%20main.html>)
- (4) ローマ字・ひらがな・カタカナロケット (<http://dyumiken.com/rocket/rocket%20main.html>)
- (5) 暗算ロケット (<http://dyumiken.com/rocket/rocket%20main.html>)

#### カ 学会における発表

- (1) メッセージのコピー  
九州心理学会第33回大会論文集 Pp. 22～23. 昭和47年
- (2) 規則学習過程の解析  
日本教育心理学会第15回大会論文集 Pp. 380～381. 昭和48年

- (3) Redundant Strings の系列想起  
九州心理学会第34回大会論文集 Pp. 33~34. 昭和48年
- (4) 規則学習過程の解析 (2)  
日本教育心理学会第16回大会論文集 Pp. 408~409. 昭和49年
- (5) 移調と数の保存の関係について (山内・丸野と共同)  
日本心理学会第39回大会論文集 P. 350. 昭和50年
- (6) 記憶探索に関する研究  
九州心理学会第36回大会論文集 P. 15. 昭和50年
- (7) 長期記憶検索過程の分析  
日本心理学会第40回大会論文集 Pp. 575~576 昭和51年
- (8) 長期記憶検索過程の分析 (3)  
九州心理学会第37回大会論文集 P. 32. 昭和51年
- (9) 自由放出項目の再認  
日本心理学会第41回大会論文集 Pp. 598~599. 昭和52年
- (10) 単一カテゴリーに属する項目の多試行自由放出 (山内と共同)  
日本教育心理学会第19回大会論文集 Pp. 338~339. 昭和52年
- (11) 図形イメージ処理過程の分析  
九州心理学会第38回大会論文集 P. 12. 昭和52年
- (12) 自由放出項目の再認 (II)  
日本心理学会第42回大会論文集 Pp. 652~653. 昭和53年
- (13) 単一カテゴリーに属する項目の多試行自由放出 (II)  
日本心理学会第43回大会論文集 P. 326. 昭和54年
- (14) 感覚・運動記憶に及ぼすイメージリハーサルの効果 (山内・大隈と共同)  
日本教育心理学会第21回大会論文集 Pp. 108~109. 昭和54年
- (15) 長期記憶の検索限界  
日本教育心理学会第22回大会論文集 Pp. 364~365. 昭和55年
- (16) 長期記憶の検索限界を超えて  
日本心理学会第45回大会論文集 P. 307. 昭和56年
- (17) 感覚運動学習に及ぼすフィードフォワード情報の効果  
日本教育心理学会第23回大会論文集 Pp. 750~751. 昭和56年
- (18) イメージと感覚運動による地図道路の跡づけ  
日本教育心理学会第24回大会論文集 Pp. 318~318. 昭和57年
- (19) 情報の検索に及ぼす意味、形、色類似性の効果  
日本心理学会第47回大会論文集 P. 299. 昭和58年
- (20) 創造的思考に及ぼす等価変換訓練の効果  
日本教育心理学会第26回大会論文集 Pp. 750~751. 昭和59年
- (21) テニス技術の発達とイメージの発達  
日本教育心理学会第28回大会論文集 Pp. 686~687. 昭和61年
- (22) 児童中期の創造性の低下現象の解明  
日本教育心理学会第29回大会論文集 Pp. 356~357. 昭和62年
- (23) [日本心理学会課題講演] 概念地図法による教授革命は可能か

- 日本心理学会第51回大会論文集 Pp. S55～S56. 昭和62年
- (24) 概念地図法による有意味教授  
日本心理学会第51回大会論文集 Pp. 812～813. 昭和62年
- (25) 児童期の創造性の発達  
日本教育心理学会第30回大会論文集 Pp. 280～281. 昭和63年
- (26) 概念地図法による創造性の育成  
日本創造学会第11回研究大会論文集 Pp. 82～86. 平成元年
- (27) The Development of Cultural Sensibility to the Geometric  
Objects( with Okamoto and Shibata). The Proceedings of Thirteenth  
International Conference of PSYCHOLOGY of MATHEMATICS  
EDUCATION. Pp.1～22. (in Paris). 平成元年
- (28) 空間図形に対する文化的感性と認知の発達に関する日仏比較研究  
—感性と創造の関係に関する一考察—  
日本創造学会第12回研究大会論文集 Pp. 64～68. 平成2年
- (29) 8タイル問題の解決過程の分析  
日本認知科学会第8回発表論文集 Pp. 50～51. 平成3年 (曾根伸と共著)
- (30) 8タイル問題の解決過程のシミュレーション  
日本認知科学会第8回発表論文集 Pp. 52～53. 平成3年 (曾根伸と共著)
- (31) 概念地図と文章記憶の発達  
日本教育心理学会第33回大会論文集 Pp. 79～80. 平成3年  
(佐藤美佳と共著)
- (32) 日仏のこどもの空間図形に対する文化的感性の違いと創造性について  
日本創造学会第13回研究大会論文集 Pp. 74～77. 平成3年
- (33) 文章記憶に及ぼす概念地図の効果  
日本教育心理学会第34回大会論文集 P. 7. 平成4年  
(中谷・青島と共著)
- (34) 高齢者の生活の質と創造性  
日本創造学会第15回研究大会論文集 Pp. 43～45. 平成5年  
(赤井と共著)
- (35) 記憶のモデルと創造性  
日本創造学会第15回研究大会論文集 Pp. 55～58. 平成5年
- (36) 児童期における創造性の発達  
日本創造学会第15回研究大会論文集 Pp. 19～22. 平成5年  
(上西と共著)
- (37) 小学生の自己と創造性の発達  
日本創造学会第16回研究大会論文集 Pp. 4～7. 平成6年
- (38) 立体構成力と創造性の関係  
日本創造学会第16回研究大会論文集 Pp. 71～76. 平成6年
- (39) 有意味教育と創造性に関する研究  
日本創造学会第17回研究大会論文集 Pp. 124～128. 平成7年
- (40) 日本とカナダの子どもの創造性・自己概念・社会的柔軟性の発達に関する研究

- 日本教育心理学会第38回大会論文集 Pp. 137 平成8年
- (41) 対数－線型モデル分析のシミュレーション  
日本心理学会第38回大会論文集 Pp. 422 平成8年
- (42) インターネットを利用した創造性の育成  
日本創造学会第18回研究大会論文集 Pp. 33-36. 平成8年
- (43) コンピューターによる筋特性測定装置の試作  
日本創造学会第19回研究大会論文集 Pp. 128-130. 平成9年
- (44) 発明の質と創造体験の関連について  
日本創造学会第20回研究大会論文集 Pp. 166-169. 平成10年
- (45) 総合的学習で伸ばす知識・能力・態度は何か  
日本創造学会第21回研究大会論文集 Pp. 36-39. 平成11年
- (46) 体験の質と創造性  
日本教育心理学会第41回大会論文集 Pp. 203. 平成11年(1999)
- (47) 体験の質と創造性(2)  
日本教育心理学会第41回大会論文集 Pp. 607. 平成12年(2000)
- (48) 日本の子供の学力と創造力  
日本創造学会第22回研究大会論文集 Pp. 117-120. 平成12年(2000)
- (49) 総合的に学習における創造力の育成と評価  
日本創造学会第23回研究大会論文集 Pp. 154-157. 平成13年(2001)
- (50) 参画授業を用いた教師の創造性育成  
日本創造学会第24回研究大会論文集 Pp. 15-18. 平成14年(2002)
- (51) 飛ぶを深く広く理解する授業展開に関する研究  
日本創造学会第25回研究大会論文集 Pp. 97-100. 平成15年(2003)
- (52) ウィンド・カー製作を通じた創造性の育成  
日本創造学会第26回研究大会論文集 Pp. 58-61. 平成16年(2004)
- (53) 新言語 FLASH を用いた学習遅滞児のためのひらがな学習プログラム  
日本創造学会第27回研究大会論文集 Pp. 1-6. 平成17年(2005)
- (54) 問題解決力を伸ばす授業を創る－NY州立大CPSの導入  
日本教育心理学会第48回大会論文集 Pp. 614. 平成18年(2006)
- (55) 学習ロケットの開発原理とその試作  
日本創造学会第28回研究大会論文集 Pp. 90-93. 平成18年(2006)
- (56) 学習ロケットの開発原理とその試作(2)  
日本教育心理学会第48回大会論文集 Pp. 388. 平成19年(2007)
- (57) 英国の創造性教育の展開  
日本創造学会第29回研究大会論文集 Pp. 40-43. 平成19年(2007)
- (58) 日本型－西洋型認識方法と創造  
日本創造学会第30回研究大会論文集 Pp. 50-53. 平成20年(2008)
- (59) 個性的能力と創造性に関する教師と大学生のほめ言葉比較  
日本教育心理学会第52回大会論文集 Pp. k368. (山崎と共著) 平成22年(2010)
- (60) 個性的能力・創造性を伸ばす学校でのほめ方  
日本創造学会第32回研究大会論文集 Pp. 145-151. 平成22年(2010)

## 10. 教育上及び学術上の功績について

### (1) 教育上の功績

- ア. 静岡大学教育学部に着任以来 32 年にわたり、教育心理学教室の教育・研究体制の充実に尽力し、教職科目としての「発達と学習」「特別活動論」「学級心理学」、教育心理学専修生のための「授業心理学」「個性化教育論」「児童理解の方法」「教育心理学実践演習」「創造心理学演習」、情報教育専攻生のための「認知科学」等の科目を担当して、学校教育や情報教育を推進できる有為な人材を養成し、静岡県のみならず全国の教育界および産業界に送り出した。
- イ. 教育学研究科修士課程においては、「創造心理学特論」「学習心理学特論」「課題研究」「修士論文研究」等を通じて、高度な学識と力量のある大学教員、教員および心理士を育てた。
- ウ. 平成 14 年 4 月から 3 年間、静岡大学教育学部附属養護学校長として法人化に伴う種々の任務をこなすとともに、県の特別支援学校との研究連携を深め、附属養護学校の教育研究を活性化した。

### (2) 学術上の功績

- ア. 長期記憶は学校等で学習する知識に相当する「意味記憶」と個人の体験が反映された「エピソード記憶」から構成されることを、実験を通して確認し、よりよい検索のためには各種の検索手がかりが有効であることを実証した。そして長期記憶の構造と記憶内容の検索メカニズムについて考察を深め、一般性のある「記憶検索モデル」を提出した。
- イ. 1980 年頃には、教育・心理等の調査で得られる大きな 2 次元表・3 次元表が統計的に有意になった場合に、その源泉がいずれのセルの数値の偏りによるかを特定できなかつた。この隘路を断つために、対数-線形モデルに関する数理理論を展開して、有意な偏りを同定することのできる BASIC プログラムを完成させた。このプログラムは多くの研究者によって頻繁に利用され、日本の学術研究レベルの向上に寄与している。
- ウ. ノバックの提唱する概念地図法 (Concept Mapping) の紹介と教育場面への導入を図った。ノバックは知識のネットワークを概念地図と名付け、文学・理科・数学・社会等の教科の授業に使っている。コーネル大学でこの優れた教育方法を身につけて日本に紹介するとともに、授業・講習等で学生および現職教師に伝えてきた。そして大藤小学校の数年に及ぶこの方法の実践を支援した。
- エ. 「学び」のみに終始しがちな日本の教育に創造性を中心に据えた「創り」を導入することの意義と大切さを多数の論文と本で提唱してきた。その理論とノウハウは、「総合的学習の学力」という一冊の本に集大成されている。
- オ. 静岡において、日本創造学会研究大会を二回と日本教育心理学会総会を一回開催した。特に後者では、英国の創造性教育を先導するフライヤー氏を招いて行った講演が、学校関係者に日本の教育の実情を振り返る機会を与え、大きな感銘を与えた。さらに、日本の内外において実施された多くのシンポジウムおよび講演も内外の学術の発展に大きく寄与している。